

実践例報告

株式会社 CMU Holdings
学習支援員 徳田由佳



実践例

ワークセンターこむたん 様

府中市
ワークセンターこむたん 様



いつか就職したい。いろんなことをやってみたい。

社会福祉法人あけぼの福祉会のワークセンターこむたんでは生まれ育った地域でくらし、働く。そんなあたり前の願いを叶えられるよう、ひとり一人の夢やねがいを大切に活動をめざしています。

そして、個々にあった働き方、働く中で自信や誇りを高められるような働きがいのある人間らしいしごとを追求しています。肢体不自由、視覚障害、脳血管障害、高次脳機能障害、知的障害といった幅広い障害状況のメンバーが集い、働き、励まし、助け合って活動しています。(HPより)

生活介護事業と
就労継続支援事業を行う

支援対象者 Aさん

iPadを使用した学習を行う

- 30代男性
- 肢体不自由(ロフトランド杖にて歩行)
- 会話でコミュニケーション可能
- 細かい指先の操作が難しい
- 文章の読み書きの問題はなし
- 特別支援学校高等部卒
- 穏やかな性格
- 野球観戦、音楽鑑賞が好き



当初の計画

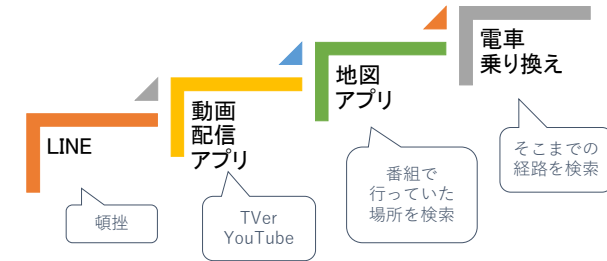
- LINEでコミュニケーションをとる
(施設職員と津田さんで目標設定)

計画の頓挫…

インストールはしたものの…

- LINEを使用している友人がいない(メールで連絡)
- 両親ともにスマホを使用していない
- 周辺でLINEを使用している人は施設職員等の『支援者』

支援内容



学習内容の遷移

初期:一般的なアプリを操作することを目標とした

- YouTube・TVer等:検索方法などを指導
 - ⇒YouTubeはコンテンツが膨大。
自分がコンテンツを選択する必要あり
 - ⇒TVerは、普段は自宅のテレビを見ているので、必要なし
- 地図アプリ:目的地の検索・ストリートビューなどを指導
 - ⇒遠くまで出かけないので、興味なし
 - ⇒そもそもコロナ禍で出かけていない

学習内容の遷移

- 電車乗り換え:自宅から目的地までの検索を指導
 - ⇒ヘルパーさんとの移動なので、困っていない
- タクシーアプリ:タクシーの呼び方、料金検索などを指導
 - ⇒自宅から駅までは家族の送迎、帰りは駅のタクシー乗り場からタクシーで帰宅なので、自分でタクシーを呼ぶ必要なし
 - ⇒タクシーの料金は気にしていない様子

学習設定の問題

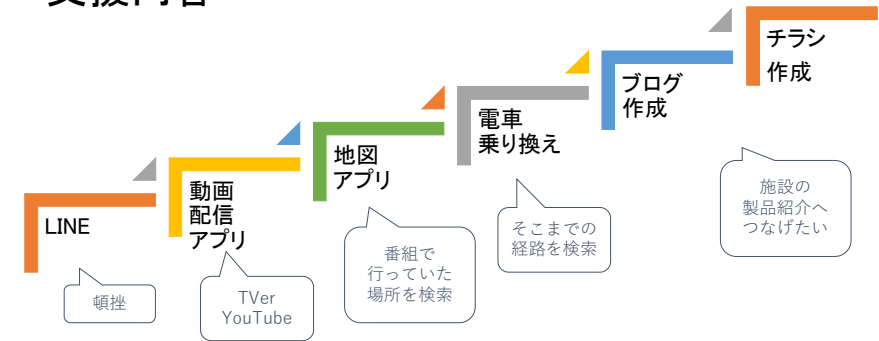
本人の能力・環境 と 提示する学習内容とのズレ…

- ・ 操作の目的理解・手順は1・2度で覚える
- ・ 文章の理解も問題ない(ローマ字入力等も可能)
- ・ 本人の生活リズム・環境に合ったアプリではないため学習意欲につながっていないと感じる



アプリの操作よりも、制作側に方針を変更する

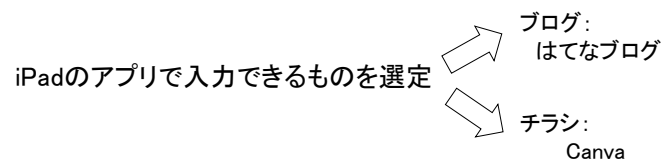
支援内容



学習内容の再設定

ヒント: 施設が1階でパンの製造販売を行っている

将来的に、施設内の活動につなげられるよう、施設の情報発信を想定したブログ・チラシの制作ヘシフト



ブログ作成(はてなブログ)

手順

- ① パンの写真を撮影(施設職員の協力で事前に撮影)
- ② 写真の編集
- ③ 1記事に2つのパンを紹介する設定でブログ入力



すぐに手順を覚え、3回程度で記事の投稿ができるようになる。

チラシ作成 (Canva)

テーマ: 施設パン製造部のチラシを作成する設定

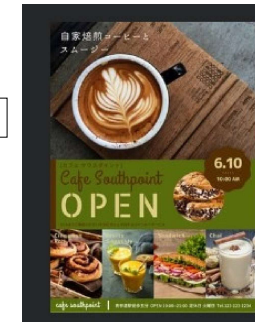
Canva: デザイン性が高いチラシ・パンフレット等をアプリで簡単に作成可能。



チラシ



ベース



支援員側から見たAさんの反応

- ブログやチラシが自分で作成できたことに興奮し、「楽しい」と言っていた
- 新年の挨拶と共に「広告作成頑張ります」とLINEが届いたので、本人の意欲が見えた

⇒ 成果が視覚的に確認できるツールは有効かもしれない

⇒ Aさんはデザイン作業に興味がありそう

支援対象者 Bさん

PCを使用した学習を行う

- 40代女性
- 肢体不自由(車いす使用)
- 長時間の座位は難しい(1時間程度で休憩が必要)
- 発語なし、コミュニケーション方法は相槌やトーキングエイド
- 文章の理解力は問題なし
- 普段、パン製造部で発注書の入力等を行う

当初の計画

- パソコンでPPTを操作し、自分でプレゼンテーションを行う
(施設職員と津田さんで目標設定)

計画の変更

- PPTでプレゼンを行う場がない
- 製造部でエクセルの関数が得意な職員に教わり、表計算等を行うことができる
- 実務に活かせる勉強の方が有効ではないか

⇒Excelの勉強へ変更

支援員側から見たBさんの反応

- 表計算の関数の仕様は理解している様子(商品マスタの概念を理解?)
- その場で支援員が答えられなかった様子を見て、不満げにしている

⇒表計算ソフト(Excel)に対して意欲を見せている。

会計系の入力や差し込み印刷(宛名印刷)等が合っているかもしれない。

事業を通して…

- 対話を重ね、本人の生活や家庭環境、学校で勉強した内容等を総合的に判断し、学習内容を設定する必要がある。
- 卒業後すぐに学校の学習内容と連携できれば、学習内容の継続が可能?
- 本人の「能力」と「やる気」のバランスを保つため、能力に合わせることに、意欲を持てるものを探り続けることが大切。
- 施設の活動と結び付けて、職員と一緒に目標を設定することも必要。施設側のチャレンジや、職員の意向も引き出す。

事業を通して…

□教育と生活介護事業の違い

教育⇒どんな重い障がいを持っていても、個別に本人の能力を引き出す

- 教員・介護職員等、個別に手厚い教育を行う
- 障害に応じて、外部専門家のアドバイスも受け、個々に合わせた教育を行う

生活介護事業所⇒家庭とは違う、社会集団に参加する「生活の場」

- 家族以外と交わる社会性を育む場
- 食事・入浴・排泄介護等の身体介護の優先順位が高い
- 学校とマンパワーの違いは明白

生活介護事業所で学習を継続するために
学習支援員が介入し、学習の環境を整える

学習支援員に求められること

①ICTの知識 ？

障害の特性に応じ、操作機器の使用等に高度な知識が必要な場合もあるが、全員がICTの専門家である必要はないと感じる。

支援機器が必要な場合は、機器導入の選択・利用開始時に専門家に立ちあっていただき、支援員と本人が操作を学ぶという方法も可能と思われる。

スマホを操作できるレベルがあれば、支援対象者と一緒に操作をして、一緒に学びを進める

学習支援員に求められること

②障害の特性理解 必須

身体の障害特性は絶対に理解必要。
コミュニケーション方法の確立も必要。

コミュニケーションが取れる場合でも、考え方や捉え方が健常者と大きく違う場合があるので会話方法を工夫し、意思を尊重する。

ただし、障害が重い場合でも、支援対象者が自分でできる範囲を見極め、最終的に一人で復習できるように学習を進める。

支援員不在にて、障害理由で物理的にセッティングが出来ない場合は、本人の指示で施設職員が手伝う、または施設職員がやり方を覚えて準備できるようにするなどの工夫が必要。